



令和8年1月30日(金)
静岡大学教育学部
附属静岡小学校
4年 学年便り 2月号

～行事に向けて 歩み出す子ども～

年が明けて、早くも1月が終わろうとしています。冬休み明けには、年末年始の過ごし方について話が盛り上がり、勉強や習い事に励む中でも、素敵な体験をしてきたことが伝わりました。「久しぶりに学校に行くのが楽しみ」と日記に書く子もいて、それぞれの学級や学年に仲間がいて、もう一つのホームとして、心の拠り所となっていることにうれしく思います。

2月には、「6年生を送る会」「特別支援学校との交流会」「はばたきカップ」などの行事があります。はばたきは、それぞれの行事に向けて、実行委員会を中心に動き出しました。6年生を送る会の準備では、どうしたら学校を引っ張ってきた6年生に感謝を伝えることができるのかと出し物やプレゼントの内容について話し合いました。

出し物として、歌を贈りたいと考えた子ども(たち)は「6年生を送る会」という会の雰囲気合う「望ましい」「好ましい」というイメージにとらわれず、それぞれが6年生へ感謝の気持ちを伝えたいと歌詞や曲調の解釈の幅を広げて、どんな曲を贈ろうかを考えました。

プレゼント作りでは、6年生の好みのデザインを把握するために、アンケートを作成しました。休日にアンケートを作成したと語る実行委員を頼もしく思います。イラストがふんだんにあり、質問項目だけでなく、心が通った温かさを感じました。プレゼント制作に入った際には、見栄えを良くするためにペン立てのデザインを6年生がどうすれば喜んでくれるのかと悩みながらも工夫して制作に励んでいました。デザインは違っても、どの子の根底にも6年生に感謝を伝えたい、喜んでほしいという温かな思いが共通していると感じました。

はばたきカップに向けては、「楽しい思い出をつくりたい」という意見に対して、「なぜ楽しい思い出をつくりたいのか」と教師に問われた際には、「はばたきとして一年間を歩んできたがんばりのまとめとしたい」「5年生になったときに、クラスが替わっても、はばたきの仲間は変わらないから、楽しい思い出があることでいいスタートを切ることができる」と素敵な発言がありました。一年というスパンで物事をとらえるだけでなく、はばたきの仲間とこの先も歩んでいくこと、そして学級という垣根を越えた一つの仲間として何ができるのかを考える姿に頼もしく思います。

はばたきも残り二ヵ月で高学年の仲間入りです。行動や発言の端々に成長を感じています。はばたきが一年をより良く結び、新しい学年でいいスタートを切るためにも行事や日々の授業で子どもを支えていきたいと考えています。

